

東カリブ諸国機構（OECS）6か国月間情勢報告（2022年11月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

11月の東カリブ諸国機構（OECS）6か国（注）の内政、経済、外交月間報告は以下の通り。

（注：アンディグア・バーブーダ（アンティグア）、ドミニカ（国）、グレナダ、セントルシア、セントクリストファー・ネイビス（セントキッツ）、セントビンセント及びグレナディーン諸島（セントビンセント））

1. 概況

- （ドミニカ）スケリット首相が12月6日に総選挙を実施すると発表。ほとんどの野党はボイコットし、野党の選挙参加は1政党のみ。全21選挙区中、立候補締め切り時点で与党のみが立候補した6選挙区は与党が議席を確保。選挙は残る15選挙区で行われる。
- （アンティグア）ブラウン首相は、男女格差を改善し、政治における女性の成長に貢献するため、次の総選挙に立候補する与党の女性候補者4名が当選したら内閣の役職に就けると述べた。また、アンティグア政府は中国商務部と3年間の覚書に調印。ブルーエコノミー分野における互恵的な開発パートナーシップの堅持や実務的な協力を深める等の内容。
- （セントキッツ）ドリュー首相が就任100日にあたってスピーチ。多岐分野にわたる40以上の取組みを説明。その中で、投資による市民権（CBI）プログラムについては、全ての国民に裨益するよう透明性をもって運用していくと述べた。また、同首相は台湾を国賓訪問。歓迎式典及び蔡総統との会談、蔡総統主催午餐会、蘇行政院長との会談、呉外相主催晚餐会が行われた。
- （グレナダ）本年1～9月に投資による市民権（CBI）プログラムを通じて1,058人が市民権を承認され、政府には1億1200万東カリブドルの収入がもたらされた。
- （セントビンセント報道）ゴンサルベス首相は、帝国権力の侵略に対抗し、反覇権を無制限に擁護し、中南米人民との連帯に大きく貢献したとして、ベネズエラのポリバリア大学から名誉博士号を授与された。
- （セントルシア）ピエール首相は11月28日から12月2日まで台湾を国賓訪問する。蔡総統との会談等を予定。同首相にとって、首相として初めての訪台。

2. 内政

（1）新型コロナウイルス

- （3日グレナダ報道）11月1日時点のワクチン完全接種率34.5%、部分接種率4.6%。
- （11日セントルシア報道）保健・健康・高齢者問題省の報告によると、新型コロナウイルス感染が進んで以降、メンタルヘルスの問題が増加。
- （17日セントルシア報道）汎米保健機関（PAHO）は、フェスティバルシーズン中のマスク着用及び社会的距離の確保を推奨。
- （21日セントルシア報道）IMFは、新型コロナウイルス感染拡大及びウクライナ戦争に伴う輸入価格の高騰がセントルシアに深刻な影響を与えていると指摘。
- （21日セントビンセント報道）政府に対する新型コロナウイルスワクチン義務化訴訟における主任弁護士は、最高医療責任者であるビーチ氏を審問すると述べた。
- （30日セントビンセント報道）保健当局によると、これまでに72,979回分のワクチンが投与された。内訳は、37,331人が初回接種、31,445人が2回目の接種、4,203人がブースター接種。

（2）その他内政

- （1日グレナダ報道）6月の総選挙で落選したジョセフ前外相は、当時の政府が外交官パスポートと引き替えに現金を受け取る方針だったと述べた。
- （2日セントルシア報道）野党統一労働者党（UWP）主導の平和的デモ行進に何百人ものプラカードを持った支持者や一般市民が集まった。彼らの懸念事項には、増加する犯罪、セントルシア労働党（SLP）政権が島の2つの港を外国企業に譲渡すると決定したこと、生活費と燃料価格の上昇等が含まれている。
- （6日ドミニカ報道）スケリット首相が、12月6日に総選挙を実施すると発表。立候補締め切りは11月18日。
- （7日グレナダ報道）本年1～9月に投資による市民権（CBI）プログラムを通じて1,058人が市民権を承認され、政府には1億1200万東カリブドルの収入がもたらされた。閣議で拒否されたのは8名だった。
- （8～11日ドミニカ報道）野党のうち、統一労働者党（UWP）、ドミニカ自由党（DFP）、代替人民党（APP）の3党はスケリット首相が発表した解散総選挙を批判。他方、与党DLPは次期総選挙に向けて候補者を公表。
- （14日セントキッツ報道）ドリュエ首相が就任100日にあたってスピーチ。国家運営、投資による市民権（CBI）プログラム、金融、医療、教育、観光振興、社会開発、環境、スポーツ、憲法・選挙制度・法制度改革、外交等、多岐にわたる40以上の取組みを説明した。
- （17、18日ドミニカ報道）チーム・ユニティ・ドミニカ（TUD）は総選

挙への参加を表明。また、17日夜に平和的抗議行動が開催された。参加者は、選挙制度改革が行われないまま実施される総選挙の中止を求めている。

●(21～27日ドミニカ報道)立候補締切り時点で45人が立候補、うち19人は無所属。与党DLPのみが立候補した6選挙区では、同党が無投票で議席を確保。残る15選挙区で選挙実施。

(注)選挙制度改革連合：野党(統一労働者党(UWP)、ドミニカ自由党(DFP)、全国共同行動運動(NJAM))、公務員組合、市民団体(懸念する市民運動他)が参加。

●(24日グレナダ報道)グレナダの投資による市民権(CBI)委員会の会長は、同プログラムに応募するロシア人が特別な扱いを受けることはなく、通常どおりの適正評価等の手続きを経る必要があると述べた。同プログラムは、政府の重要な収入源であり、政府は過去5年間で4億ECドル以上を獲得している。最近、ミッチェル首相は、2022年1～9月までのCBIからの収入は1億1200万ECドルであったと述べた。

●(24日セントキッツ報道)ネービス島の地方選挙が12月12日に実施される。

●(30日アンティグア報道)ブラウン首相は、男女格差を改善し、政治における女性の成長に貢献するため、次の総選挙に立候補する与党の女性候補者4名が当選したら内閣の役職に就けると述べた。

3. 経済

●(1日付グレナダ報道)グレナダ観光庁は、英国航空が毎週日曜日に、グレナダ、カリアク島、プティトマルティニーク島に就航したことを歓迎した。これにより英国航空は週3便、バージン・アトランティック航空が週2便、ロンドン・グレナダ間を結ぶことになる。

●(1日付セントビンセント報道)現在台湾で開催されている世界保健福祉フォーラムにプリンス保健相が参加。首都キングスタウン郊外に最新鋭の病院を建設するとの台湾の支援に謝意を表明。この病院は25年に開院予定。

●(2日付アンティグア報道)ジョセフ保健・健康・環境大臣は、中国政府から医療機材購入費としての54万東カリブドル(約20万米ドル)の寄付に謝意を表明した。

●(2日付セントルシア報道)10月26日に台湾大使館とサー・アーサー・ルイス・コミュニティ・カレッジ(SALCC)の共催にて起業家ショーケースが開催され、70近くのブースが出展された。

●(3日付セントキッツ報道)台湾技術使節団がネービス島の農業省にパイナップル2,000株を寄贈。

- （4日付セントキッツ報道）EU、アフリカ・カリブ海・太平洋諸国機構（OACPS）、国連資本開発基金（UNCDF）は、トリニダード・トバゴ及び東カリブ諸国に対して4年間にわたるデジタル金融包摂事業を実施する提携を発表した。
- （6日付セントビンセント報道）米州ポリバル同盟（ALBA）銀行は、閣僚会合において、セントビンセントに代表事務所を開設することを決定した。
- （6日付セントビンセント報道）ゴンザルベス首相は、リトル東京として知られるウィンドワード・バスステーションの改修に必要な資金の一部を確保したことを明らかにした。同首相は、ベネズエラ滞在中にALBA銀行の閣僚理事会で説明を行い、改修に必要な500万米ドルのうち50%に当たる250万米ドルを確保したと述べた。
- （2、6日付セントキッツ報道）5～7日に開催される台湾エキスポに、台湾企業26社が直接またはサンプルやカタログ展示の形で参加する。リン台湾大使は、参加している台湾企業が両国の貿易関係活性化と経済発展のために行った努力を賞賛した。
- （7日付グレナダ報道）2022年1月から9月までに、投資による市民権事業を通じて1,058名が市民権を獲得し、約4,144万米ドルの歳入をもたらした。申請者の多くは中国、ロシア、インド、南アフリカ、ナイジェリアの国籍者が占め、米国や欧州からも申請がある。なお同期間に8名の申請が閣議で拒否された。
- （8日付グレナダ報道）グレナダ観光局は、カナダ航空が毎週木・日曜日、カナダLCCサンウィング航空が毎週日曜日にトロント-グレナダ間に再就航することを歓迎した。
- （10日付アンティグア報道）ジョナス社会変革・ブルーエコノミー大臣は、中国商務省とブルーエコノミー分野における投資や人材育成等の協力を推進する3年間の覚書に署名した。
- （10日付セントルシア報道）チェン台湾大使は、日曜日の洪水被害を受けて、被災した小学校に現金を寄付。
- （11日付セントルシア報道）チェン台湾大使は、2021年立ち上げた東カリブ諸国連合における太陽光発電事業に対する最初の支援として8万米ドルの小切手をバプティスト外務・国際貿易・民間航空・海外移住者大臣に手交した。合計20万米ドル支援をする予定。
- （13日付セントルシア報道）台湾は、セントルシアの北部で発生した洪水被害からの復興を支援するため、10万ドルの義援金を拠出する。
- （14日付セントルシア報道）プロスペー農業・漁業・食料安全保障・村落開発大臣は、英国がバナナの輸入を差し止めたことから、トリニダード・トバゴ向

けにバナナの出荷を開始したと述べた。

- （15日付報道）アンデス開発公社は、政府のデジタル経済・社会への強化のために1.2億米ドル、排水路整備のために4,000万米ドルの融資契約を交わし、また、西インド諸島大学には1,000万米ドルの寄付を行った。
- （16日セントルシア報道）台湾大使館はLaborie Boys' 小学校にマルチメディア機材を寄贈。
- （16日セントキッツ報道）ドリュー首相は、投資による市民権（CBI）プログラムを、全ての国民に裨益するよう透明性をもって運用していくと述べた。
- （17日付アンティグア報道）内閣は、最低賃金を9東カリブドル（約3.3米ドル）/時間に改訂することを決め、国会へ提案した。
- （18日付セントビンセント報道）IMFは4条協議を終えて、セントビンセントの2022年経済は、大規模投資事業、観光、農業の回復により5%成長、インフレ率は5.8%と予測した。
- （19日付アンティグア報道）統計局は、10月末時点の年間インフレ率を7.7%と発表した。食料品価格は同13.3%、食用油価格は同27.7%、食肉価格は同18.4%増加した。
- （21日セントルシア報道）台湾大使館はミコウド中学校にマルチメディア機材を寄贈。
- （22日付セントビンセント報道）ゴンザルベス首相は、21日国会が関税法改正案を可決したことを歓迎し、同法の目的の一つは、燃費効率の良い小型車の輸入を促進することにあるとした。
- （23日付グレナダ報道）グレナダ政府は、11月26日からカリビアン航空が、トリニダードとグレナダに毎日就航することを歓迎した。
- （23日付セントルシア報道）EUは、民間セクター開発としての雇用創出事業として、1,680万東カリブドル（約622万米ドル）を贈与した。
- （22日セントルシア報道）台湾政府はセントルシア政府に3件の資金を提供。一つは先の洪水被災者を支援するための268,820東カリブドル、二つめは21年にピエール政権によって復活した困窮対策基金を支援するための100万東カリブドル、三つめは、今後の景気刺激策のための2,688,200東カリブドル。資金総額は390万東カリブドルにのぼる。
- （26日付セントルシア報道）台湾は、65インチの学習目的のカメラ内蔵型インタラクティブ・スクリーンを、本事業最後の8校目となる小学校に寄贈した。
- （28日グレナダ報道）中国大使館はカリアク及びプチ・マルティニーク問題・地方自治省に5台の新品のノートパソコンを寄贈。
- （30日セントルシア報道）台湾大使館は、セントルシアの女性による農産物加工業を促進するため、レイズ・ユア・ボイス・セントルシア社に10万米ドル

を寄付した。

4. 外交

- （4日セントビンセント報道）ゴンサルベス首相は、帝国権力の侵略に対抗し、反覇権を無制限に擁護し、中南米人民との連帯に大きく貢献したとして、ベネズエラのポリバリア大学から名誉博士号を授与された。
- （4日セントビンセント報道）セントビンセントのバスケット留学生2名が台湾に到着。逆に別の1名はバスケット留学を終了した。
- （5日セントルシア報道）セントルシア中国友好協会が設立18周年記念式典を開催。
- （6日セントキッツ報道）ドリュー首相が台湾を国賓訪問。7日に台湾に到着する。
- （7日アンティグア報道）マーシャル漁業相と松原大使がアーリングス漁業施設を視察。
- （8日セントビンセント報道）小学生を対象とした初の中国語授業パイロットプロジェクトが開始された。
- （8日ドミニカ報道）トルドー・カナダ首相は、中国が民主主義国家と「攻撃的なゲーム」を行い、カナダの機関を標的にしていると非難。最近の選挙で中国が支援した候補者の「秘密ネットワーク」を、カナダの情報機関が特定したと地元メディアが報じたことによる。
- （8～10日セントキッツ報道）7～10日にドリュー首相が台湾を国賓訪問。ダグラス外相等が同行。主要行事として、歓迎式典及び蔡総統との会談、蔡総統主催午餐会、蘇行政院長との会談、呉外相主催晚餐会、台湾国際協力開発基金訪問、台湾留学中のセントキッツ人学生との面会等が行われた。
- （14日セントビンセント報道）iWitness News 創設者兼編集長のケントン氏が、ヴィンセント人として初めて台湾教育省から台湾同窓会特別賞を授与された。
- （22日セントルシア報道）商務省の中小企業開発センター（SBDC）は、台湾の技術代表団と共同で、「ビジネスプラン・モデルと創造ワークショップ」を開催する。包括的なビジネスプランを作成するために必要な手順の習得を目的とするもの。
- （28日セントルシア政府発表）ピエール首相が28日から12月2日まで台湾を国賓訪問する。蔡総統との会談等を予定。政府関係者、民間企業代表者、青少年支援者が同行する。ピエール首相にとって、首相として初めての訪台となる。
- （29日セントルシア政府発表）ピエール首相は28日に台湾に到着し、呉外相に迎えられ、儀仗隊の歓迎を受けた。その後、蔡総統主催の晚餐会が行われた。